令和元年度第１回千葉市総合教育会議　議事録

１　日　時　　令和元年９月４日（水）　１３：３０　～　１４：３０

２　場　所　　第一会議室

３　出席者　　市長、磯野教育長、中野委員（教育長職務代理者）、和田委員、小西委員、千葉委員、藤川委員

４　市長あいさつ

市長　　今年度も教育委員の皆様と本市の教育行政を一つ一つ前に進めていきたいと考えている。今回の議題である子どもの受動喫煙対策については、学校の協力を得ることによって、本市の子ども医療施策に関して前進させていくことができると考えているため、忌憚のない意見交換ができればと思う。

５　教育長あいさつ

教育長　　これまでの総合教育会議では、様々な面での議論を重ね、教育行政に反映させることができた。今回の二つの議題については、まさにこれから本市が取り組んでいく方向性を確認して、来年度の施策に反映させていきたいと考えているため、活発な意見交換ができればと思う。

６　議題

（１）協議・調整事項について

資料１　　子どもの受動喫煙の防止について　（健康部長より説明）

中野委員　　喫煙の害は勿論、場合によっては受動喫煙の害の方が大きいともいわれている。また、タバコの煙を吸う年齢が低いほど、成長に多大な影響を受けるといわれており、これは呼吸器系統だけではなく、知能にも影響を及ぼすものである。子どもたちに受動喫煙を回避させるよう、対策や検討を行政にしていただけるのは非常にありがたい。尿中コチニン検査は費用が高額ではあるが頑張ってもらいたい。

和田委員　　いよいよ子どもの受動喫煙対策に向けた取組みが始まるということで期待したい。子どもたちが喫煙者に対して過剰な反応を示してしまったり、あるいは父母が喫煙している家庭においてトラブルが生じたりしないかが非常に心配である。こうした問題も含めて、学校での指導を行っていかなければならない。

市長　　子どもたちにどのような教育をしていくのかは、細心の注意をはらいながら検討していきたい。

藤川委員　　受動喫煙の害については全くこの通りであり、大変重要な取組みであると思うが、子どもの受動喫煙防止に向けて、学校がどういう立場をとるのかが難しい。まずは、千葉市の受動喫煙対策に関して一般市民へのＰＲをしっかりとやっていただいて、千葉市が受動喫煙防止に積極的に取り組んでいることについて、市民の認知が高まったところで、その具体策として、子どもに対する尿中コチニン検査や防煙教育を

実施する必要がある。そうしなければ、受動喫煙防止に関して学校が先行して保護者にアプローチすることとなるため、衝突が生じる可能性があり難しいのではないか。まずは、学校における取組みに先んじて適切なＰＲを行っていただきたい。

市長　令和２年４月が大きな節目となるため、ここに向けて我々は全面的に取組みを加速させる予定となっている。子どもの受動喫煙対策は、本市の受動喫煙対策について適切なＰＲを行ったうえでの施策という意識で臨みたい。

小西委員　受動喫煙の防止については、オリンピック・パラリンピックを契機に大分、前進したと思うのと同時に、その後も継続的に取組みがなされるべきとも思う。東京都の条例では都や区市町村等に対して受動喫煙防止措置に係る連携・協力の義務を課すほか、都民に対しても他人に受動喫煙を生じさせないよう責務を課している。一方、千葉市の条例では保護者の責務は規定されているが、市として対策に取組む責務や市民の責務は規定されていないため、千葉市の条例制定の経緯を教えていただきたい。

健康部長　本市の条例をつくるうえで東京都の条例は参考にした。東京都の条例の場合には、具体的な受動喫煙対策を進めるのが市区町村であるため、本市と条例のつくりは異なるかと思う。喫煙場所に関する規制は罰則付きの厳しいものとなったが、子どもの生活は家庭が中心となるため、家庭への対策が必要であった。ただ、家庭はプライベートな空間であり、強制的な罰則を伴う規定は難しいことから、子どもに対しての保護監督義務を持つ保護者に対して責務を課す規定としている。

小西委員　経緯は理解した。市の責務を規定する等、市長、職員、担当者、議員が代わっても、しっかりと受動喫煙対策を継続できる仕組みにしていただきたい。

市長　本市としての受動喫煙対策は計画に落とし込み、医療施策全体の中でも取り組んでいきたいと考えているのでご意見やご指摘をしっかり受け止めたい。

資料２　オリンピック・パラリンピックを契機とした「まちづくり」「ひとづくり」

（教育次長より説明）

千葉委員　「バリアフリー」に対する定義が日本国内でつくられていないと思う。「誰しもが住みやすいこと」といった、バリアフリーの定義や条例等を千葉市独自でぜひつくっていただきたい。そのなかで、パラリンピックに限らず誰しもがスポーツをできるような環境を爪痕として残していけるようなまちづくりにしていけたらと思う。そのためにも経験のある我々をどんどん活用していただき、できた後ではなく、できる前から相談していただくことで、まちづくりの役に立たせていただけたらと思う。

市長　何のためにバリアフリー整備等に取り組むのかという哲学・ビジョンは重要であるため、子どもたちはもとより、市民にも伝えられるよう努力していきたい。

和田委員　オリンピック・パラリンピックまで１年を切ったなかで意識しなければならないのはその後のこと、レガシーである。2021 年以降の取組みを具体的な数値も含めて加えることで、レガシーという部分がより確実なものになっていくと思う。

市長　「2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉市行動計画」をつくる際は、2021 年以降の取組みを必ず掲載するようにしているため、今後もしっかりと見える形で示していきたい。また、パラリンピックは身体障害者を中心としたスポー

ツであるが、2020年まではパラリンピックスポーツに注力すべきだと思う。そのかわりに 2021 年以降はデフリンピックやスペシャルオリンピック等の様々な障害のある方々のスポーツにも拡げていくことが必要だと考えている。この点に関しては、市長部局として 2020 年以降のビジョン・計画をしっかりもって、教育委員会にも学校教育における連携について相談させていただく。

藤川委員　2021年以降の取組みでは、何か千葉市の象徴的な取組みがあるといいと思う。障害のある方だけが参加するスポーツ大会だけではなく、障害の有無に関わらず一緒にプレイできるような、いわゆるアダプテッドスポーツの大会等も考えられる。今後の象徴となるようなイベントが千葉市で開催され、そういうものに子どもたちがかかわっていくという道筋ができると大変ありがたい。

市長　組織には節目が大事であると思っており、2020年に向けた目標があるからこそ、吸引力・求心力を持てていた。障害の有無に関わらず一つのスポーツをするといったレガシー的な取組み・イベント等を 2020 年以降に残していくことを意識し、市長部局でも検討させていただく。この点については、宿題として頂戴する。

千葉委員　約 20 年前から日産自動車株式会社のテストコースを活用し、障害の有無にかかわらず参加できる車いすレースや小学生向けの車いす体験交流会を行っている。ただ、子どもたちに車いすを体験してもらっても、どうしても「楽しかった」で終わってしまう。本当は車いすに乗ることが楽しいことではなく、命を預かるサポートや介助をするものということを大人が教えていかなければならない。ぜひ教育の一環として子どもたちに伝えられるような機会をつくっていただければと思う。

市長　そうした視点も踏まえて取り組んでいきたいと思う。

中野委員　千葉委員がおっしゃるように、私たちがいかに障害のある方々のことを知らないかということがある。障害者アスリートによる学校訪問など、障害のある方々の話を実際に聞く機会をぜひ増やしてもらいたい。子どものうちから理解を進めることで世の中全体が変わっていくと思う。パラリンピックという機会があり、千葉市でも盛り上がってきているところであるため、障害のある方々が本当に困っていることについて、子どもたちに理解してもらういい時期であると思う。

市長　2020 年以降も障害のある方への理解が進み、障害のある方々が社会に出やすくなり、交流が促進されるよう努力していきたい。

（２）事業部門で検討を進め、進捗等を報告する事項について

資料３　総合教育会議の各連携事項の進捗状況について　（総合政策部長より説明）

藤川委員　キャリア教育に関して、子どもたちの起業家精神を育成するような取組みを市内に拠点をおく企業や大学等と協働して行うプラットフォームをつくれないか、経済部と考えている。その中では、現在のプログラムだけではなく、学校への出前授業や職場体験などを学校教育主体の枠とは異なった形で推進する枠組みをつくれないかを議論させていただいている。次回の総合教育会議に間に合うかは分からないが、ぜひ市長部局でご検討いただき、教育委員会に提案するといった形をとれればと思う。

また、子どもの貧困対策にも若干関わるが、総合教育会議において「児童虐待対策」

について取り上げてもらいたい。児童相談所は非常に大変な状況にあり、学校が児童虐待への対応において非常に重要な役割を担っていることに加えて、県内では野田市で事件が発生している。こうした状況で、千葉市における児童虐待対策は現状どうなっていて、どう課題があるのかを洗い出し、さらに改善に向けて何ができるのか議論することが必要ではないかと思う。今後、どういう形で取り上げるかを含めて相談していただければありがたい。

市長　児童虐待対策は、こども未来局と教育委員会でどのような連携をして、今後どのようなことがさらに強化できるのかを含めて整理させていただく。

教育長　子どもの受動喫煙防止については、保護者への理解、学校への周知等に積極的に協力していき、尿中コチニン検査の結果の事後指導を含め、今後も様々な面で連携を図っていきたい。また、オリンピック・パラリンピックに関しては、当初から2021年以降のレガシーのことを考えていた。地域と一緒に取り組む子どもたちの活動が増えてきたことは大きな進歩だと思う。地区での交流については、子どもたちを交えた球技大会などを中学校区単位でできればと思うので、教育委員の皆様からいただいた意見を参考に今後も取組みを進めたい。

千葉委員　市内の体育館、陸上競技場、プール等のスポーツ施設において、障害がある方の施設利用可否の現状を把握しているか。

市長　以前、ロンドン大会に出場された選手から練習場所についてご指摘いただいたこともあって、車いすを利用する方が練習する場所をある程度確保した。全ての施設ではないが、他市に比べて車いすを利用する方々のスポーツ環境は開放してきている。